

卒業生、校長と別れの握手

卒業式が他校より早いのは、卒業生全員が進学希望なので、入学試験日を考えて学校側が考慮したからであり、この日、中学生は休校、高校生がその式に参加した。式は講堂で午前九時半より始まり正午過ぎに終了、卒業生は全員の手拍子に送られ退場して行つた。まず、校長のはなむけの挨拶の後、校長の手で卒業生二人一人に待望の卒業証書が渡され、その毎度卒業生は校長と感謝の、そして別れの握手をし、この間にアラール神父のかたなる電気オルガンが深く静かに講堂をどろかし、いかにも卒業式らしい雰囲気であり、卒業生は感慨無量の面持であつたに違いない。そして父兄席の中心では御婦人がハンカチを取り出しておられる姿が見受けられた。このような社敵かつ静かな雰囲気の時、新聞社のカメラマンが証書授与の写真を取るために壇上で盛んにアチコチを動き回つておられ、たゞ少くし残念であつた。その後大原謙一郎氏が祝辞を述べられ、また昨年発足した教育協力会から卒業生に記念品が送られ、教育協会の会長より卒業生に対するはなむけの言葉があつた。

その後、卒業式にはなくてはならぬ「仰けは尊とし」と「螢の光」の合唱があつた。卒業生の歌つた「仰けは尊とし」は卒業式にふさわしい美しい声だつたが、高

校一年及び二年が歌った「仰けは尊とし」と「螢の光」は声がそろわないで上出来ではなかった。長い間じつと何もしないで坐りつくなからうか。

二十二日・二十三日には
ついに全校閉鎖に至る

25	5	7	11	3
24	5	11	16	2
23	×	×	×	×
22	×	×	×	×
21	×	×	×	×
20	×	×	×	×
19	×	×	×	×
18	×	×	×	×
17	×	×	×	×
16	×	×	×	×
15	×	×	×	×
14	×	×	×	×
13	×	×	×	×
12	×	×	×	×
11	×	×	×	×
10	×	×	×	×
9	×	×	×	×
8	×	×	×	×
7	×	×	×	×
6	×	×	×	×
5	×	×	×	×
4	×	×	×	×
3	×	×	×	×
2	×	×	×	×
1	×	×	×	×

清盛公のように猛威を振つた今年の流感もようやく下火になつて来たがその流感で人々は多くの被害を受けた。そしてあちこちの学校で閉鎖があつた。洛星もその一つである。

一月十七日に高校二年・中学三年で欠席者が増えたために学年閉鎖を行つたのを皮切りに、翌十八日には中学二年も学年閉鎖を行つた。しかし、それでも欠席者が増えたために二十一日には中学校が全学年閉鎖した。翌二十二日、二十三日にはついに全校閉鎖に至つた。こうして欠席者も次第に減つた。始め、再び元の洛星に戻つた。

なお、今年の流感、即ち流行性感冒はB型インフルエンザで高熱が続き、体の節々が痛くなる、といったヤツカイ者である。

洛星に於ける被害は上の表にまとめておきました。

月 日	2	13	14	15	16	17	18
	I	2	5	5	3	5	9
学 年	I	7	10	8	9	17	×
	II	11	17	20	22	×	×
中 学	I	2	4	5	8	6	6
	II	2	6	11	11	×	12
高 校	I	2	4	5	8	6	6
	II	2	6	11	11	×	12

※数字は欠席者数×印
は閉鎖学年

去る三月十九日、例年の如くヨ
ゼフナドウ校長の誕生日と靈名の
祝賀の会が中学・高校生徒会の主
催で例年より数段も華かに行なわ
れた。

当日は日曜日でもあったので多
勢の父兄が来校され又京大に多数
の合格者を出した直後でもあった
ので校長先生はいうまでもなく学
校中にぎやかな祝賀の気分がみ
た。

約四十分のミサの後、中学・高
校演劇部の演劇が行なわれたが、
その舞台上には「つばひはあすでい
toゆ」とモールド大きく画が
れた文字を見た我々は今更ながら
生徒会幹部の「センス」に感嘆し
た。校長先生もその文字をご覧に
なり大変嬉しうすにしておられ
た。

此の二月、三月
四月は學生に取つて
何とも大變な三月月
である。▼ある者に
とつては、思わす万
才と叫びたい氣にな
るであらうしある者にとつては、
……ああもう一年頑張らなければ
ならん、と思ひ、ガツクリと肩を
落すのである。▼万才を叫んだ者
は、新しい立派な學園に学び、洋
々たる希望に胸をふくらませ、意
氣揚々として、カラから脱け出た
蝶のように、大空を飛び回るので
あらう。將に「バラ色の生活」への
脱皮である。▼しかし、ガツクリ
肩を落した者はどうだろうか？ 他
人の喜びをよそに、もう一年（否
それ以上）奈落の底に、あえがね
ばならぬ。▼此のような、一種の
人間を作り出す源は何処にあるの
だらう？、この答は、例外もある
と思つが、一般に「入學試験」と
確答できる。一人の人間の進路
が、わすか二、三日の入學試験で
決定されてよいのだろうか、否決
してそうであつてはならぬ。誰れ
もこう考えるだらう。▼しかし、現
實においては、どうすることも出
来ない。合格者が勝利者で、不合
格者が敗者であるときと思われて

—校史の流れの中で育ちつつあるもの—

正木二三雄

せんが、私がなぜです。

十人十色という如く、人

ち、かつそれを形成して行

は失つていなかっ
るのですが、特に学校とい

生活を開拓して行く人達が集っております。

いや、それぞれ 当然その考え方も各人、各

い（一般に厳格と「何が学校生活であるか」

10

学 年	月 日	2																								
		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25												
中 学	I	2	5	5	3	5	9	日 曜 日	12	×	×	×	5	5												
	II	7	10	8	9	17	×		21	×	×	×	5	3												
	III	11	17	20	22	×	×		22	×	×	×	11	7												
高 校	I	2	4	5	8	6	6	11	17	×	×	16	11													
	II	2	6	11	11	×	12	13	19	×	×	2	3													

※数字は欠席者数×印
は開鎖学年

日には中学二年も学年閉鎖を行つた。しかし、それでも欠席者が増えたために二十一日には中学校が全学年閉鎖した。翌二十二日、二とめておきました。

が続き、体の節々が痛くなる、といったヤツカイ者である。洛尾に於ける被害は上の表にまとめられています。

なきていた。約四十分のミサの後、中学・高校演劇部の演劇が行なわれたが、その舞台に「はつぴいばあすでいよゆ」とモウルで大きく画かれた文字を見た我々は今更ながら生徒会幹部の「センス」に感嘆した。校長先生もその文字をこじらな大変嬉しそうにしておられた。

蝶のように、大空を飛び回るであらう。將に「バラ色の生活」への脆皮である。▼しかし、ガツクリ肩を落した者はどうだろうか？他人の喜びをよそに、もう一年（否それ以上）奈落の底に、あえがねばならぬ。▼此のような、一種の人間を作り出す源は何処にあるのだろうか？、この答は、例外もあると思うが、一般に「入学試験」と確答できる。一人の人間の進路が、わずか二、三日の入学試験で決定されてよいのだろうか、否決してそうであつてはならぬ。誰れもこう考えるだらう。▼しかし現実においては、どうすることも出来ない。合格者が勝利者で、不合格者が敗者であるときえ思われて

先生方と生徒諸君が持つている「愛」において一致しているのだと信じます。

われわれの家庭生活の延長が学校生活であるという意味の中に、独立した人格を持つ親子が「愛」を通じて家庭を創造して行くが如く、学校においてもその「愛」がいかされ愛において洛星を創造して行く所にわれわれの喜びがあるのではないでしようか。

第一期生の或る生徒は「私は洛星を予備校のようなものにしたくない、私は大学に入ることのできる能力を身につけたい。しかし大學生のための知識だけを私は望んでない、楽しくあるべき学校生活を送りたい。たゞに費したくない。たゞ大学受験のためだけに」ということをいいましたが、この言葉は当時の誰しもが考へた、たゞ勉強するだけでなく立派な社会人となるために与えられた大分を学校生活の中において育てて行くべく努力をしていたもので、勿論現在の生徒諸君もそうであることを疑いませぬ。お互いが反省し、批判なしには進歩は期待できぬかも知れませんがその批判が「愛」において一致しないならば、それこそ学園の危機でもありましよう。マルセルは「愛を生きてゐるとき、愛によつて存在に参与しているときは愛とは何かと問ふことはしないであらう……。」といつて愛を客観化したり、問題化すべきでなく愛することがすべてであるといつておりますが学園のすべての人の中にこの学園を愛していない人も無いと信じます。過去九年度の洛星の校史の中に流れている唯一のものとしての家族的な愛のつながりに於いて全員が一致協力し合つてこそこのわれわれの学園を創造して行くことが出来るのです。

私達は「これからの洛星」の創造のために、過去の感傷にとらわれず、また未来の空想を追つことなく現実を明り認識の下に求め互いに心の通ひの中において一致し前進しようではありませんか。

この附しに後援生協会の長後行事であるが、赤米を飾るにふさわしい行事であつた。ここに改めて中高校生徒会幹部に感謝の意を表したい。

また来年もこのように素晴らしい行事の行なわれることを望む。

あれこれ

三月二十一日 午前 終業式
午後 中学卒業式
二十日 中二・中三編入試験
二十三日 中二・中三編入試験合格発表
二十六日 ケルプ会館別式
四月六日 新中一及び編入者の招集日
七日 始業式
八日 午前九時 中学入學式
午後一時 高校入學式
十日から平常通り授業

難関を突破するより仕方がないのであ。▼我校の先輩の成功を祈りつつ、このような悪習が早急に解決するように切に望むのである。▼今一つ考えねばならぬのは、一連の連鎖反応式テロ・ブームである。これがすべて、十七才、二十才位の青年の仕業である。▼十七才といへば、敗戦のみじめな、ドサクサマギレの環境に育つた人々である。ある心理学者が「人間の性格の一番の基を作るのが四才前後である。」という説を出していることから考えると、四才頃に開かれた環境に育つたため、現在テロというような、反理性的行動に走るのだとも考え得る。▼最近中流以上の家庭の子供が万引しているのについていへば、足りないから、ほしいから盗むのではないということも推測できる。この事実から、民主主義、暴力反対の教育を受けたものが、テロに走る、といふ事実も、考え得るといえる。だから、人間の心理や行動は直線的ではないといえる。

方を占める多数人で行なわれた。
ある組では、打つ選手と守る選手
とが別れていたりして、何がまど
まりがなく、ただ、ならだろと試
合が続けられた感じであった。
テニスは運動場の東の隅のデニ
スコートで行なわれた。テニスの
方はソフトボールほど派手な応援
もなく、静かに、そしてゆつくり
の結果、Aゾーンは、一位一〇〇、またB
ゾーンの、一位A、二位二〇、またB
位の結果、熱戦のすえ、一位二〇
の結果、一位A、三位一〇となつた。
卓球は体育館でいかにも試合ら
しい雰囲気の中に展開された。そ
れぞれの規則ある態度で試合が行なわれたな
ら、本当の体育大会といえた
た。

全般的にいつて、この日は試験
終了の翌日のためか、たらだら行
なれただけであつた。もう少し
規律ある態度で試合が行なわれ
たならば、本当の体育大会とい
えるものであつた。

第四十七号は期間の都合で二面
にしました。△今回はヤヤ!!はて
な、題想、注文は休みます。▽学
年未考査も終り、いよいよ皆をね
え強に一年ずつ進級します。来年
も勉強に、遊びに楽しい年であり
たいものです。

第十回の「ヤヤ!!はてな」はず
ラール神父でした。総応募者数
八人、正解者六人でした。早速
入賞品は三月二十一日に部員
を通じて直接お渡しいたします。

一等 保坂 友一(MIB)
二等 入江 宏和(MIC)
三等 野川 龍男(MIA)
なお賞品は三月二十一日に部員
を通じて直接お渡しいたします。